

# T S P I (改訂版) による柔道選手の性格に関する研究

吉 岡 剛

## 1. 諸 言

運動選手の性格を知ると言うことは、大変重大な意義を持っている。

運動選手の指導をする時、コーチが自分の経験に基いて、指導をしたとしても、それを柔軟に受けとるタイプや、かえって畏縮してしまうタイプがある。又、それに反発し練習に対する意欲を、減少させるタイプもいる。とすれば選手が、どのように対処するかを、見極めてからの、指導が必要となる。

試合において実力を出させる、又、作戦を考えるにしても、選手の性格を考慮しなければならない。練習において実力を出せるが、試合であがってしまい満足な結果が出ない、反対に試合になると力以上のものが出る等、よく聞くことである。こういった選手の性格をコーチが、把握していれば、自律訓練法・シュブリユルの振り子・自己暗示<sup>1)</sup>等により、試合でより力を発揮するための心理的指導ができる。作戦においても、選手一人一人の性格を抜きには、考えられない。たとえば、オーダーの決定をするとき、柔道においては、先鋒・中堅・大将と力関係のみでなく、その位置に向く性格であるかを、考慮して決定させていくものである。

このように、選手各人の性格特性を知るとは、極めて大切なことである。

またこのことを、一歩進めて考えると、個人だけではなく、団体においても活用できる。

大会で上位を占めるチームと、1・2回戦で敗退するチームとがある。総合力により差が出るのである。総合力は、心・技・体によって形成されている。

---

1) 日本スポーツ心理学会編「長田一臣4, スポーツと心理学的コンディショニング」『スポーツ心理学概論』, pp.107~111, 不味堂, 1979.

と言うことは、身体特性・技術特性だけでなく、性格特性も大きなウェートを占めていることになる。とすれば性格特性においても上位チームと、下位チームに相違があると、考えられるのである。性格特性が、競技成績を左右する一要因と考えれば、上位チームの性格特性をつかむことは、非常に有意義なことになる。なぜならば、下位チームがよりよいチームを目指す上で、母標となりうるからである。福田氏<sup>2)</sup>が、性格形成は、先天的素質と後天的要因とに基づいている、と述べているように、性格は後天的要因により、変化しうるものであるからである。上位チームの性格特性をつかみ、それを目指す指導を行えば、競技成績は向上するものと考えられる。

このような時、コーチは経験的に理解し指導する場合が多い。もちろん秀れた観察力と、長期にわたる経験が、主観的・経験的な正しい理解を示すことがあるが、外面からの観察だけでは、本当の性格特性を見い出せない場合が多い。それゆえに、選手の性格特性を、客観的にとらえる必要が出てくる。性格を客観的にとらえる方法に、質問紙法・作業法・投影法等がある。

これまで柔道において、質問紙法を用いての選手の性格を、研究したものは多い。小野沢氏<sup>3)</sup>らは、大学柔道選手に、U-K検査、Y-G検査を行い、優勝校・上位校のレギュラーは、粘着型・自閉型・地道粘り型が多く、AD型・A'型であり、中位校・下位校のレギュラーは、地道粘り型・粘着型・自閉型の他に、おだやか型が多く、A'型・A型であると報告している。又、一木氏<sup>4)</sup>は、山梨県下の高校選手に、TSP I検査を行い、一般高校生と運動種目別選手を、比較した中で、柔道選手は、L(見せかけ尺度)・M(活発尺度)・P<sub>1</sub>(考え方尺度)・A<sub>1</sub>(うちとけない尺度)が高い傾向を示したと述べている。

しかし、TSP I(改訂版)検査で、柔道選手の性格特性を調査し、競技成

---

2) 福田邦三, 「心理学の序説としての精神の生理学」, p. 285, 杏林書院, 1976.

3) 小野沢弘央, 小俣幸嗣, 佐藤宣践, 松永義雄, 野瀬清喜, 「学生柔道選手の性格特性」, 『柔道』第52巻第2号, pp. 56~62, 講道館, 1981.

4) 一木昭男, 「TSP I検査によるスポーツ選手の性格に関する研究」, 『体育学研究』第9巻第1号, p. 374, 1965.

1983年6月 吉岡 剛：T S P I（改訂版）による柔道選手の性格に関する研究

績との関連を、比較検討したものは、見当らない。

今回は、昭和56年12月25日西日本より55校集り行われた、西日本高校柔道錬成大会において、優勝・2位・3位（2チーム）の上位4チームのレギュラー（19名）と、1・2回戦敗退のチームより、無作意に選んだ下位4チームのレギュラー（20名）に、T S P I（改訂版）検査を実施し、その結果を、成績別・身長別・体重別・経験年数別に、比較検討し柔道選手の性格特性に関して研究したものである。

## 2. 方法

スポーツ科学委員会心理部会が、スポーツ選手の性格特性を、把握するためのパーソナリティテストとして作成した、「T S P I（体協スポーツ科学研究委員会人格目録）（改訂版）」が、柔道選手の性格特性を知る上で、より内部構造が明確である、と考えこれを使用した。「T S P I（改訂版）の実施の手引」の内、T S P I質問用紙A・B・C・D・E・F<sup>5)</sup>（表1）について、T S P I回答用紙<sup>6)</sup>（表2）に、回答してもらい実施した。

## 3. 対象

西日本高校柔道錬成大会の、優勝・2位・3位（2チーム）の上位4チームのレギュラー（19名）と、1・2回戦敗退の内、無作意に選んだ下位4チームのレギュラー（20名）とを対象とした。

## 4. 調査場所・実施時期

湯布院スポーツ・センター

昭和56年12月

---

5) スポーツ科学委員会編「T S P I（改訂版）の実施の手引」、pp. 8～13、スポーツ科学委員会、1973.

6) 同上p. 15.

## 第1表 T S P I 質問用紙

## A

- 
- 1 私のやりかたはひとからよく誤解される。
  - 2 退屈すると、さわぎたくなる。
  - 3 私はたしかにとりこし苦労ばかりしている。
  - 4 のどから血が出たことがある。
  - 5 あとになって何をしたかわからない行為をしていたことがある。
  - 6 スランプにおちいって、長い間何も手につかぬことがある。
  - 7 心臓がどきどきしたり、息ぎれして困ることがよくある。
  - 8 むかついたり、吐いたりすることがよくある。
  - 9 なにかしようとする、よく手がふるえることがある。
  - 10 私は非常に考えこむがちだ。
  - 11 勘にさわると、すぐ腹をたてる。
  - 12 私はひとなみ以上に敏感である。
  - 13 気分が沈んでいるときでも、なにか刺激があればすぐ元気になる。
  - 14 自分の仕事について調べたり、読んだりすることが好きだ。
  - 15 ひとが自分をどう考えていようと、そんなことは気にしない。
  - 16 いろいろな考えが浮んできて、眠れなかったことがある。
  - 17 ものごとを真正直に考えがちだ。
  - 18 すぐに友達ができる。
  - 19 愛する人にいじめられて快感を味わうことがある。
  - 20 私は人のあつかいがうまい。
-

B

---

- 1 意見の違う人とでも、親しくつきあえる。
  - 2 そばに人がいるのは嫌だ。
  - 3 初めての人とうまく話ができる。
  - 4 理由もないのに、はしゃいだ気分になることがある。
  - 5 ひとなみ以上に健康である。
  - 6 首すじや肩がこる。
  - 7 からだのどこかが、だるかったり、しびれたりすることがよくある。
  - 8 歩くとき、からだがふらふらすることがある。
  - 9 学校では大勢の前で物を言うのがつらかった。
  - 10 こんなに恥ずかしがりやでなかったらよいと思う。
  - 11 ちょっとの間でも、やりかけた仕事を中断するのは嫌いだ。
  - 12 ときどき人を困らせたり、驚かしたりしたくなる。
  - 13 からかわれても気にしない。
  - 14 ときどき動物をいじめる。
  - 15 私の行動は周囲の習慣に左右されている。
  - 16 自信がないために、物事をあきらめてしまうことがよくある。
  - 17 社交的な集りにでるのは、楽しみである。
  - 18 機会があっても、私はよい指導者にはなれないだろう。
  - 19 私の家庭の雰囲気は、世間なみに楽しい。
  - 20 会などでは、いつもひとの先に立って働く。
-

## C

- 
- 1 毎晩よく眠れて、さっぱりした気持でめがさめる。
  - 2 簡単に決心がついてしまうことがある。
  - 3 その場で、すぐ決心がつかないために、よく損をする。
  - 4 私は交際が下手だ。
  - 5 閉めきった部屋にいると不安になる。
  - 6 筋肉がひきつったり、ピクピクしたりして、困ったことがある。
  - 7 いつも頭がすっきりしない。
  - 8 めまいを起すことがよくある。
  - 9 ときどき私は全くだめだと思うことがある。
  - 10 人が列にわり込もうとすると、しゃくにさわって文句を言ってやることがある。
  - 11 ふつうの人より、特に神経質だと思う。
  - 12 すぐに疲れる。
  - 13 ときどき、からだじゅうに力がみなぎる。
  - 14 私の日常生活は、愉快的ことではいっばいだ。
  - 15 ひとから非難されると非常にこたえる。
  - 16 じっとしていられないほど落ち着きがなくなるときがある。
  - 17 学校では、よく先生にいらまれていた。
  - 18 狩猟をしてみたい。
  - 19 困難が重なってきて、耐えがたくなることがある。
  - 20 会やグループのために働くのが楽しみだ。
-

D

---

- 1 話す時につまったり、うわづったりすることがある。
  - 2 自分のほうがよく知っていることなのに、人から指図を受けねばならないことがよくあった。
  - 3 人とあったときは、いつも適当な話題をみつけるのに骨が折れる。
  - 4 家族のものは、必要以上にとがめだてしすぎて困る。
  - 5 私はひとかどの人間になろうという希望を失いそうになる。
  - 6 私はたしかに不運なめぐりあわせだ。
  - 7 ととき私に役に立たない人間だと思う。
  - 8 下手なゲームはしないことにしている。
  - 9 異性に心がひかれる。
  - 10 ある種の動物をみると気持ちが悪くなる。
  - 11 私は十分に自分を信頼している。
  - 12 きたない物を見ると、胸が悪くなる。
  - 13 なんでも物事をはじめるのがおっくうだ。
  - 14 父が好きだ。
  - 15 性についての話が好きだ。
  - 16 どうしてよいか、決心のつかないことがよくある。
  - 17 私はくよくよすることがよくある。
  - 18 誰かが私の物を盗もうとしている。
  - 19 科学の本を読むのが好きだ。
  - 20 大ぜいの人の前でも平気で意見を発表できる。
-

## E

- 
- 1 目上の人の前でできるとかたくなる。
  - 2 世話役はいつも人にたのむことにしている。
  - 3 ときどき、たまらなく家とびだしたくなるときがある。
  - 4 緊張しなければ仕事ができない。
  - 5 ひとになんと言われようとも、押切ってやるのがときどきある。
  - 6 皆と一緒にいるときでも、いつもひとりぼっちのように感じる。
  - 7 自分の感情をおもてに出さないたちだ。
  - 8 友達と一緒に問題をおこしたときには、一人で責任を引き受けてしまう。
  - 9 ただスリルを味わうために、危険なことをした。
  - 10 私の頭はどうかしている。
  - 11 私が苦しんでいるのはある人のせいだ。
  - 12 私のもっとも激しい戦は、私自身と戦うことだ。
  - 13 ときにはひとに話せないような悪いことを考えることがある。
  - 14 家では人前にいるときよりも食事の行儀が悪い。
  - 15 よく真夜中に恐ろしくなった。
  - 16 ときにはひどいことば（ちえっ、ばか、など）を口にしたくなる。
  - 17 私はいつも本当のことをいうとはかぎらない。
  - 18 不吉な考えが頭に浮んできて払いのけることができない。
  - 19 新聞の社説を読むのが好きだ。
  - 20 私は、引込思案である。
-



F

---

- 1 ひと中では、いつもうしろのほうに引込んでいる。
  - 2 自分から進んでひとに話すよりも、ひとの話をきくほうである。
  - 3 こまかい注意を要する仕事が好きだ。
  - 4 会などで、自分も何かかくし芸をやらなければならないときは苦痛である。
  - 5 すぐ、まごつくたちだ。
  - 6 自分の恥ずかしがりやを、かくそうとつとめることがよくある。
  - 7 話すときに、口ごもったり、うわづったりすることがある。
  - 8 愛する人を傷つけて快感を味わうことがある。
  - 9 時には人のうわさ話をする。
  - 10 推理小説が好きだ。
  - 11 昼間は眠れるが夜は眠れない。
  - 12 その日のうちにしなければならぬことを、翌日にのばすことがよくある。
  - 13 気分の悪いとき、腹がたつことがある。
  - 14 私は人に対する同情や意見をかくそうとはしない。
  - 15 なんでも自分のものにしてしまおうとするひとをみるとシャクにさわる。
  - 16 私はすぐカッとなるが、またケロリとしてしまう。
  - 17 会合がはじまっても、平気で入っていける。
  - 18 私はよく女だったら、よいと思う。（女の場合は男だったら）
  - 19 はりきっている時に誰か陰気なやつが、すっかり気分をおちこわしてしまうことがある。
  - 20 私はひとなみに気もきくし、能力もあると思う。
-

第2表 T S P I 回答用紙

TSP I 回答用紙

A		B		C		D		E		F		
1	はい いいえ	1	はい いいえ	1	はい いいえ	1	はい いいえ	1	はい いいえ	1	はい いいえ	
2	<input type="checkbox"/>	2	<input type="checkbox"/>	2	<input type="checkbox"/>	2	<input type="checkbox"/>	2	<input type="checkbox"/>	2	<input type="checkbox"/>	?
3	<input type="checkbox"/>	3	<input type="checkbox"/>	3	<input type="checkbox"/>	3	<input type="checkbox"/>	3	<input type="checkbox"/>	3	<input type="checkbox"/>	L
4	<input type="checkbox"/>	4	<input type="checkbox"/>	4	<input type="checkbox"/>	4	<input type="checkbox"/>	4	<input type="checkbox"/>	4	<input type="checkbox"/>	
5	<input type="checkbox"/>	5	<input type="checkbox"/>	5	<input type="checkbox"/>	5	<input type="checkbox"/>	5	<input type="checkbox"/>	5	<input type="checkbox"/>	Hs
6	<input type="checkbox"/>	6	<input type="checkbox"/>	6	<input type="checkbox"/>	6	<input type="checkbox"/>	6	<input type="checkbox"/>	6	<input type="checkbox"/>	
7	<input type="checkbox"/>	7	<input type="checkbox"/>	7	<input type="checkbox"/>	7	<input type="checkbox"/>	7	<input type="checkbox"/>	7	<input type="checkbox"/>	D
8	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/>	Hy
9	<input type="checkbox"/>	9	<input type="checkbox"/>	9	<input type="checkbox"/>	9	<input type="checkbox"/>	9	<input type="checkbox"/>	9	<input type="checkbox"/>	
10	<input type="checkbox"/>	10	<input type="checkbox"/>	10	<input type="checkbox"/>	10	<input type="checkbox"/>	10	<input type="checkbox"/>	10	<input type="checkbox"/>	Pt
11	<input type="checkbox"/>	11	<input type="checkbox"/>	11	<input type="checkbox"/>	11	<input type="checkbox"/>	11	<input type="checkbox"/>	11	<input type="checkbox"/>	Ma
12	<input type="checkbox"/>	12	<input type="checkbox"/>	12	<input type="checkbox"/>	12	<input type="checkbox"/>	12	<input type="checkbox"/>	12	<input type="checkbox"/>	
13	<input type="checkbox"/>	13	<input type="checkbox"/>	13	<input type="checkbox"/>	13	<input type="checkbox"/>	13	<input type="checkbox"/>	13	<input type="checkbox"/>	Si
14	<input type="checkbox"/>	14	<input type="checkbox"/>	14	<input type="checkbox"/>	14	<input type="checkbox"/>	14	<input type="checkbox"/>	14	<input type="checkbox"/>	
15	<input type="checkbox"/>	15	<input type="checkbox"/>	15	<input type="checkbox"/>	15	<input type="checkbox"/>	15	<input type="checkbox"/>	15	<input type="checkbox"/>	Do
16	<input type="checkbox"/>	16	<input type="checkbox"/>	16	<input type="checkbox"/>	16	<input type="checkbox"/>	16	<input type="checkbox"/>	16	<input type="checkbox"/>	A
17	<input type="checkbox"/>	17	<input type="checkbox"/>	17	<input type="checkbox"/>	17	<input type="checkbox"/>	17	<input type="checkbox"/>	17	<input type="checkbox"/>	
18	<input type="checkbox"/>	18	<input type="checkbox"/>	18	<input type="checkbox"/>	18	<input type="checkbox"/>	18	<input type="checkbox"/>	18	<input type="checkbox"/>	
19	<input type="checkbox"/>	19	<input type="checkbox"/>	19	<input type="checkbox"/>	19	<input type="checkbox"/>	19	<input type="checkbox"/>	19	<input type="checkbox"/>	
20	<input type="checkbox"/>	20	<input type="checkbox"/>	20	<input type="checkbox"/>	20	<input type="checkbox"/>	20	<input type="checkbox"/>	20	<input type="checkbox"/>	

### 5. 結果の採点と解釈

TSP I 回答用紙に、採点盤<sup>7)</sup>を置き、粗点を数える。次に各尺度の粗点を、標準点に換算して、プロフィール記入用紙<sup>8)</sup>（表3）の各尺度の該当するところに、印を付けて折線で結ぶ。

平均プロフィールは、各群の粗点の平均値と基準群の平均値との差を、基準群の標準偏差（表4）で割ったものである<sup>9)</sup>。

解釈は、TSP I 結果の解釈<sup>10)</sup>を参考とした。

第3表 TSP Iプロフィール

TSP Iプロフィール						(短所として現れた 場合の特徴)	(長所として現れた 場合の特徴)	
1	2	3	4	5	…?	無答数	融通がきかぬ 決断力に乏しい	正確を期する
0-----1-----2-----3-----4-----5					…L	みせかけ尺度	みせかけが多い	規則などを重視する
0-----1-----2-----3-----4-----5					…Hs	とらわれ尺度	とりこし苦労する	慎重である
~2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10-----11					…D	気が重い尺度	気が重い。 非観的	調子にのらずに やれる
0-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10-----11-----12-----13-----14					…Hy	むら気尺度	むら気である。 我が強い	失敗しても くじけぬ
~4-----5-----6-----7-----8-----9-----10-----11-----12-----13-----14-----15-----16-----17-----18					…Pt	不安感尺度	自信がない	几帳面
~2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10-----11					…Ma	活発尺度	上っ調子	活発である
0-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10-----11-----12-----13-----14-----15					…Si	うちとけない 尺度	うちとけない	思いやりがある
0-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----10					…Do	引込み思案尺度	引込み思案である	遠慮深い
~12-----13-----14-----15-----16-----17-----18-----19-----20-----21-----22					…A	付加尺度	気力・自信に 欠ける	地味にこつこつ やれる

7) 同上p. 17.

8) 同上p. 16.

9) 同上p. 5.

10) 同上pp. 2~4.

第 4 表 基準群男子 (505名) の平均と標準偏差

尺 度	項目数	平 均	標準偏差
?	120	4.00	4.11
L	6	1.92	1.45
Hs	11	4.06	1.98
D	17	6.45	2.47
Hy	20	6.82	3.96
Pt	21	10.78	3.86
Ma	17	6.75	2.37
Si	17	8.08	3.74
Do	10	5.16	2.87
A	35	16.78	2.56

6. 結果と考察

①成績別

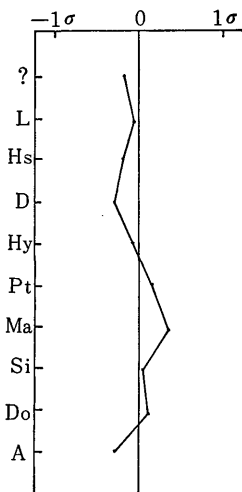
まず全体粗点であるが、表 5 の如くである。これより成績別粗点平均値を出したものが、表 6 である。次に成績別に平均プロフィールにして見たのが、図 1

第 5 表 全体粗点 (N=39)

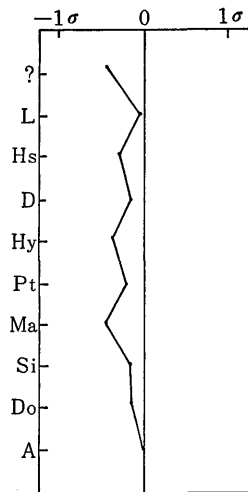
尺 度	F・O			N			O・N			O・M			K			K・S			H			S・S																	
	K	K	T	H	K	M	T	K	T	M	T	K	O	K	H	T	M	S	H	K	S	S	T	H	S	K	T	M	A	K	Y	T	Y	S					
?	2	6	4	1	6	0	0	1	7	0	0	9	3	4	11	0	0	10	0	0	0	0	0	2	0	10	1	0	1	9	0	3	3	6	0	10	0		
L	2	3	2	1	3	1	2	1	3	1	3	2	1	1	2	2	2	3	2	0	3	1	4	2	1	2	3	2	2	0	5	4	1	2	0	2	2	1	1
Hs	4	6	3	3	2	2	4	2	5	6	3	7	2	4	3	4	4	3	4	3	4	4	5	4	2	3	6	4	2	2	1	3	3	2	5	3	3	4	6
D	5	6	5	7	2	5	7	7	13	8	7	7	4	4	5	6	3	2	7	5	5	7	5	9	5	6	9	9	6	8	6	4	5	2	6	5	9	5	4
Hy	8	10	5	7	5	5	5	4	9	11	6	12	2	12	4	7	6	18	7	3	4	5	5	8	8	6	8	8	3	2	3	4	5	1	10	8	4	3	9
Pt	14	17	6	15	8	15	10	17	12	9	11	6	18	10	9	11	11	7	9	8	10	12	13	16	10	7	13	11	11	11	9	2	3	16	11	12	7	11	
Ma	9	8	4	4	6	4	10	6	6	11	9	12	10	7	9	8	6	9	7	6	2	2	2	4	6	8	10	4	5	5	6	9	6	9	3	12	5	4	7
Si	10	8	10	11	4	13	4	7	12	11	10	7	2	10	4	8	11	9	6	9	5	7	5	12	11	8	3	12	11	8	7	4	6	2	8	6	8	8	6
Do	3	3	5	9	4	5	6	6	8	9	8	8	0	9	3	6	6	3	2	5	1	4	4	5	5	1	2	8	9	7	3	5	4	4	7	5	5	6	6
A	20	16	12	15	18	11	22	15	13	19	18	14	15	13	20	16	15	16	14	13	21	20	15	20	14	20	20	17	19	16	17	17	18	17	18	11	17	10	17

第6表 成績別粗点平均値  
(小数点第3位4捨5入)

	上位チーム N=19	下位チーム N=20
?	3.37	2.40
L	1.95	1.90
Hs	3.74	3.45
D	5.79	6.00
Hy	7.00	5.35
Pt	11.37	10.10
Ma	7.63	5.75
Si	8.26	7.30
Do	5.42	4.80
A	16.05	16.85



第1図 上位チーム (N=19)



下位チーム (N=20)

である。

それぞれの平均プロフィールを、比較検討して見ると、上位チームは、Pt (不

安感尺度)・Ma(活発尺度)・Si(うちとけない尺度)・Do(引込み思案尺度)が高い傾向を示し、逆に、?(妥当性尺度)・Hs(とらわれ尺度)・D(気が重い尺度)・A(付加尺度)が低い傾向を示している。

下位チームは、高い傾向を示したものがなく、全体に低い傾向を示している。その中でも、?(妥当性尺度)・Hs(とらわれ尺度)・Hy(むら気尺度)・Ma(活発尺度)が、より低い傾向を示した。

このことから次のように考えられる。上位チームは、高い傾向を示したものから考えると、何事にも几帳面であり、活力にあふれ、極度に熱中し、過度に努力し、自我感情が高揚し、自信に満ち、自己の才能に誇張的であり、反対する者には闘争的である。又、対人的接触は好まず、統率力は欠けている傾向が強いと考えられる。

試合においては、活動的で、積極的で、ねばり強い試合を行うが、スランプには陥りやすい傾向がある。又、低い傾向を示したもので、D(気が重い尺度)がより低い傾向を示したことから、将来について楽観的であり、決断力は鋭い傾向もあることが考えられる。

次に下位チームであるが、高い傾向を示したものがなく、低い傾向のみを示している。

そこでより低い傾向を示した、?(妥当性尺度)・Hs(とらわれ尺度)・Hy(むら気尺度)・Ma(活発尺度)から見ると、考え方に融通性はあるが、自己主張がなく、自信がない傾向が強いと考えられる。

上位チームと下位チームとの大きな差異が見られたものに、Ma(活発尺度)がある。上位チームが一番高い傾向を示したのに対し、下位チームが一番低い傾向を示した。ここに上位チームと下位チームの特徴が見られる。この尺度はそう的傾向を見るものであるが、スポーツ選手に関する性格特性として、Ma(活発尺度)は一般に高い傾向にあるという知見が、従来の研究(例えばTPI)などで報告されているが、本研究の上位チームには、その傾向があるのに対して、下位チームは、逆に低い傾向を示しているのである。競技成績の良し悪しにこの尺度は大きく関係があると考えられる。とすれば、この尺度の高い

傾向の者は、よりよい柔道選手の性格特性を持っていることにする。下位チームは、Ma (活発尺度) の部分を伸ばす又はめばえさせる必要がある。

②身長・体重別

次に全体を身長・体重別に分け体格による性格特性を、比較検討して見る。

まず身長別であるが、柔道選手として、低い (170cm以下) ・普通 (171cm~176cm) ・高い (177cm以上) に分け粗点を見たのが、表7である。これより、粗点平均値を出したものが、表8である。又、これを平均プロフィールにしたものが、図2である。

それぞれの平均プロフィールを見てみると、低い選手は、L (見せかけ尺度) にだけ高い傾向を示し、低い傾向は平均してあるが、Hs (とらわれ尺度) ・Hy (むら気尺度) ・A (付加尺度) により低い傾向が見られる。

普通の選手は、A (付加尺度) に高い傾向を示しているだけで、あとは低い傾向を示している。

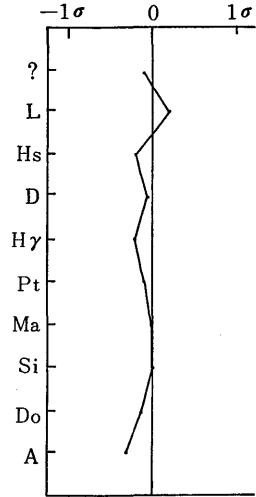
高い選手は、Pt (不安感尺度) ・Do (引込み思案尺度) に高い傾向を示し

第7表 身長別粗点 (N=39)

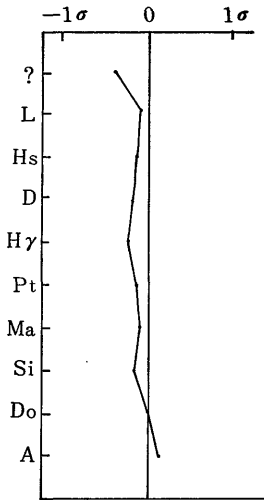
身長別 尺度	低い(170cm以下)										普通(171cm~176cm)										高い(177cm以上)																		
	T	M	K	T	K	M	S	T	H	M	S	S	A	K	T	M	K	H	K	S	S	K	T	M	T	Y	S	K	H	K	H	T	O	T	S	H	Y	K	Y
?	4	0	7	9	3	10	0	0	10	1	0	3	6	0	0	11	0	0	0	2	1	0	3	0	10	0	2	1	6	0	1	4	0	0	0	9	3	6	
L	2	1	3	2	1	3	4	2	2	3	2	2	2	3	1	3	2	2	3	1	1	0	4	1	2	1	1	2	1	3	2	1	1	2	2	0	5	0	2
Hs	3	2	5	7	2	3	5	4	3	6	4	2	2	6	6	3	3	4	4	4	2	2	3	3	3	4	6	4	3	2	4	2	4	4	4	3	1	5	3
D	5	5	13	7	4	2	5	9	6	9	9	6	2	6	8	7	5	6	5	7	5	8	4	5	9	5	4	5	7	2	7	7	4	3	7	5	6	6	5
Hy	5	5	9	12	2	8	5	8	6	8	8	3	1	10	11	6	4	7	4	5	8	2	4	5	4	3	9	8	7	5	5	4	6	6	7	3	3	10	8
Pt	6	15	17	11	6	11	12	13	10	7	13	11	3	17	12	9	10	9	8	10	16	11	9	2	12	7	11	14	15	8	10	10	18	11	7	9	11	16	11
Ma	4	4	6	12	10	9	2	4	8	10	4	5	9	8	11	9	9	8	2	2	6	5	9	6	5	4	7	9	4	6	10	6	7	6	7	6	6	3	12
Si	10	13	12	7	2	9	5	12	8	3	12	11	2	8	11	10	4	8	5	7	11	8	4	6	8	8	6	10	11	4	4	7	10	11	6	9	7	8	6
Do	5	5	8	8	0	3	4	5	1	2	8	9	4	3	9	8	3	6	1	4	5	7	5	4	5	6	6	3	9	4	6	6	9	6	2	5	3	7	5
A	12	11	13	14	15	16	15	20	20	17	19	17	16	19	18	20	16	21	20	14	16	17	18	17	10	17	20	18	22	15	13	15	14	13	17	18	11		

第 8 表 身長別粗点平均値  
(小数点第 3 位 4 捨 5 入)

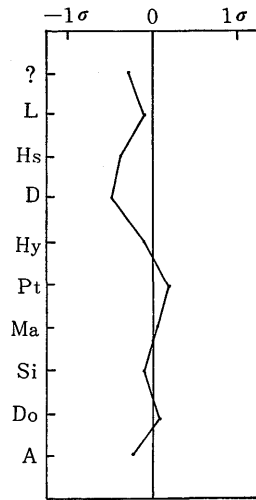
	低い (170cm以下) N=13	普通 (171cm~176cm) N=14	高い (177cm以上) N=12
?	3.62	2.36	2.67
L	2.23	1.79	1.75
Hs	3.69	3.79	3.25
D	6.31	6.00	5.33
Hy	6.15	5.86	6.50
Pt	10.38	10.21	11.45
Ma	6.69	6.50	6.83
Si	8.15	7.43	7.75
Do	4.77	5.14	5.42
A	16.08	17.07	16.17



第 2 図 低い (170cm以下)  
N=13



普通 (171cm~176cm)  
N=14



高い (177cm以上)  
N=12

ている。低い傾向は、D (気が重い尺度) が極端であり、続いて、Hs (とらわれ尺度) ・ ? (妥当性尺度) ・ L (見せかけ尺度) と低い傾向を示してい



る。

このことから、身長別の性格特性を考えて見ると、低い選手は、L（見せかけ尺度）が高い傾向を示している。従って、他人に自分のことを知られることに対する防衛的態度が強い傾向であると考えられる。又低い傾向を示したものから、自信過剰であり、自己暗示でよい方向に向いやすく、自己確実性が高い傾向の強いものと考えられる。

普通の選手は、A（付加尺度）に高い傾向を示している。従って、自己不確信であり、悲観的で、情意的適性において望ましくない傾向であると考えられる。より低い傾向を示した、？（妥当性尺度）から、考え方に融通性があると考えられる。

高い選手は、高い傾向を示したものから、常に不安で観念のとりことなり、雑念がうかんで、意識過剰でもあり、何事にも几帳面に確かめずにはいられない傾向であると考えられる。低い傾向を示したものから、自己の身体や健康に対しては、優越感を持っている。又将来については楽観的に考えている傾向も強いと考えられる。

身長別においては、よりよい柔道選手に必要と考えられる、Ma（活発尺度）には差異はあまり見られなかった。

次に体重別を見てみることにする。柔道選手として、軽量（79kg以下）・中量（80kg～89kg）・重量（90kg以上）とに分け、体重別に粗点を見たのが、表9である。これを粗点平均値にしたものが、表10である。それを平均プロフィールにしたものが、図3である。

それぞれの平均プロフィールを見てみると、軽量の選手は、Si（うちとけない尺度）が高い傾向を示したが、その数値は極めて小さい。低い傾向の中では、？（妥当性尺度）・Ma（活発尺度）がより低い傾向を示した。

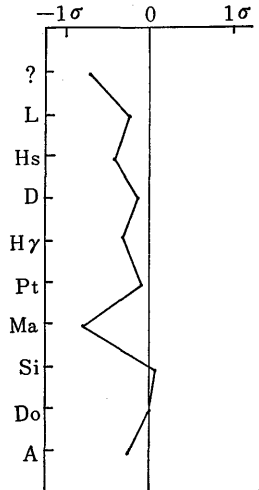
次に中量の選手であるが、？（妥当性尺度）・L（見せかけ尺度）・（Pt不安感尺度）・Ma（活発尺度）が高い傾向を示した。低い傾向は、Hs（とらわれ尺度）・D（気が重い尺度）・Si（うちとけない尺度）・Do（引込み思案尺度）・A（付加尺度）が示した。

第 9 表 体重別粗点  
N=39

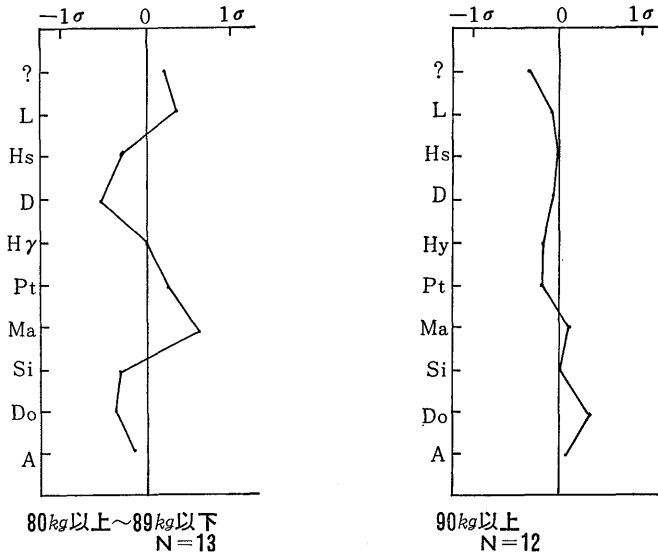
体 重 別 尺 度	軽量(79kg以下)										中量(80kg~89kg)										重量(90kg以上)																															
	TMHSSTSSSKMAKT										KKKKKOKMHYTYSH										MHTTMTTHKMSY																															
	MSIIMIHHNTSFE										INTAHNMMNFAEY										ASSTAKTNFMSM																															
?	4	0	0	0	0	0	2	1	1	3	3	3	0	2	6	6	7	3	4	1	1	0	0	9	0	6	0	1	0	1	0	0	9	0	0	0	10	0	10													
L	2	1	2	2	4	2	1	1	2	0	1	2	0	2	2	3	3	3	3	1	1	2	3	2	5	4	2	1	1	2	1	1	3	2	2	0	3	3	2	1												
Hs	3	2	4	4	5	4	4	2	4	2	3	2	5	3	4	6	2	5	2	4	3	3	3	1	3	3	6	3	4	2	6	3	7	4	3	4	6	2	4													
D	5	5	6	7	5	9	7	5	9	8	5	2	6	9	5	6	2	1	3	4	4	5	2	6	6	4	5	4	7	7	7	8	7	7	3	5	5	9	6	5												
Hy	5	5	7	7	5	8	5	8	8	2	5	1	10	4	8	10	5	9	2	1	2	4	8	6	3	4	8	9	7	5	4	1	6	1	2	6	3	4	8	3	3											
Pt	6	1	5	9	7	1	2	1	3	1	0	1	6	1	2	1	4	1	7	8	1	7	6	1	8	1	1	1	1	5	1	0	1	2	9	1	1	1	9	8	7	1	7									
Ma	4	4	8	7	2	4	2	6	4	5	6	9	3	5	9	8	6	6	10	7	9	9	8	6	9	1	2	7	4	1	0	6	1	1	9	1	2	6	2	1	0	5	4									
Si	10	1	3	8	6	5	1	2	7	1	1	2	8	6	2	8	8	10	8	4	1	2	1	0	4	9	8	7	4	6	6	1	1	4	7	1	1	0	7	1	1	9	5	3	1	8						
Do	5	5	6	2	4	5	4	5	8	7	4	4	7	5	3	3	4	8	0	9	3	3	1	3	5	5	6	9	6	6	9	8	8	6	5	1	2	9	6													
A	1	2	1	1	6	1	4	1	5	2	0	1	4	1	7	1	6	1	8	1	3	1	5	1	3	2	0	1	7	1	8	2	2	1	5	1	9	1	8	1	4	1	5	1	3	2	1	0	1	9	1	0

第10表 体重別粗点平均値  
(小数点第3位4捨5入)

	軽量 (79kg以下) N=14	中量 (80kg~89kg) N=13	重量 (90kg以上) N=12
?	1.21	4.92	2.58
L	1.57	2.46	1.75
Hs	3.36	3.45	4.00
D	6.14	5.08	6.33
Hy	5.71	6.78	6.00
Pt	10.36	11.77	10.00
Ma	4.93	8.15	7.08
Si	8.29	6.92	8.08
Do	5.07	4.08	6.25
A	16.07	16.38	17.00



第 3 図 79kg以下  
N=14



重量の選手は高い傾向として、Do（引込み思案尺度）が示されている。低い傾向は、？（妥当性尺度）・Hy（むら気尺度）・Pt（不安感尺度）が示した。

このことから、体重別の性格特性を考えると、軽量の選手は、高い傾向については数値が小さいことから解釈はせず、低い傾向を示したのものから、意志の決断は鋭く、考え方に融通性はあるが、自信がなく、自我感情は高ぶらず、自己の才能に収縮的である傾向が強いと考えられる。

中量の選手は、極端に高い傾向を示した、L（見せかけ尺度）・Ma（活発尺度）から、他人に自分のことを知られることに対する防衛的態度が強いが、活力にあふれ、物事に熱中し、努力し、自信に満ち、反対する人には、闘争的になる傾向が強いと考えられる。試合においては、積極的で、ねばり強い試合を行う場合が多い。又、低い傾向を示したのものから、物事にとらわれず、将来に楽観的であり、自分の能力は十分に発揮し、統率力があり、スポーツマンとしての情意的適性において望ましい傾向もあると考えられる。

重量の選手は、Do（引込み思案尺度）が高い傾向を示している。従って、常に率先して行動する能力や人の扱い方や仕事の処理などの統率力に欠けている

傾向が強いと考えられる。又、低い傾向を示したものから、考え方に融通性があり、現実的であるが、自己主張はなく、むら気がある傾向も強いと考えられる。

体重別においては、中量の選手に、Ma（活発尺度）が高い傾向が見られた。中量の選手はよりよい柔道選手の性格特性を、そなえているものと考えられる。軽量の選手は、よりこの傾向を持つことが必要と思われる。

③経験年数別

次に全体を経験年数別に分け、経験年数による性格特性を見てみる。

最近始めた者を4年以下とし、中学一年より始めた者を5年とし、それ以前より行っていた者を6年以上と分けた。

その経験年数別粗点が表11であり、それを平均値にしたものが表12である。その平均プロフィールが、図4である。

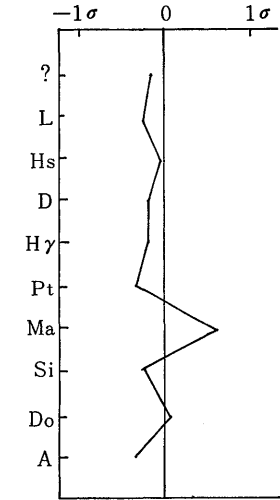
まず4年以下の選手は、Ma（活発尺度）が非常に高い傾向を示し、あとは

第11表経験年数別粗点 (N=39)

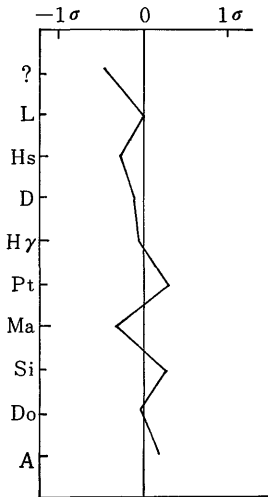
経験年数別 尺度	4 年 以 下										5 年										6 年 以 上																		
	M	T	F	K	K	H	S	N	Y	T	Y	K	M	T	O	T	S	T	H	M	S	S	Y	S	K	T	H	K	K	M	S	K	S	K	T	A	K		
	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....			
?	0	0	0	9	3	11	0	0	2	3	6	0	10	2	0	1	4	0	0	0	10	1	0	9	0	6	4	1	6	7	10	0	0	1	0	3	3		
L	2	1	3	2	1	2	2	0	1	1	2	2	1	2	1	1	1	2	1	2	2	3	2	2	5	1	3	2	1	3	3	2	3	4	0	4	2	0	
Hs	4	6	3	7	2	3	4	3	2	3	3	3	4	4	2	2	4	4	4	4	3	6	4	2	1	6	6	3	3	2	5	3	4	4	5	2	3	2	5
D	7	8	7	7	4	5	6	5	5	5	5	9	5	5	5	7	4	3	7	9	6	9	9	6	6	4	6	5	7	2	13	2	7	5	5	8	4	2	6
Hy	5	11	6	12	2	4	7	3	8	5	8	4	3	8	5	4	12	6	5	8	6	8	8	3	9	10	5	7	5	9	8	7	4	5	2	4	1	10	
Pt	10	12	9	11	6	10	9	9	16	2	11	12	7	14	15	10	18	11	10	13	10	7	13	11	11	17	6	15	8	17	11	7	8	12	11	9	3	16	
Ma	10	11	9	12	10	9	8	6	6	6	12	5	4	9	4	6	7	6	2	4	8	10	4	5	6	7	8	4	4	6	6	9	7	2	2	5	9	9	3
Si	4	11	10	7	2	4	8	9	11	6	6	8	8	10	13	7	10	11	7	12	8	3	12	11	7	6	8	10	11	4	12	9	6	5	5	8	4	2	8
Do	6	9	8	8	0	3	6	5	5	4	5	5	6	3	5	6	9	6	4	5	1	2	8	9	3	6	3	5	9	4	8	3	2	1	4	7	5	4	7
A	22	19	18	14	15	20	16	13	14	18	11	17	20	10	11	15	13	15	20	20	20	20	17	19	17	17	16	12	13	18	13	16	14	21	15	16	17	17	18

第12表 経験年数別粗点平均値  
(小数点第3位4捨5入)

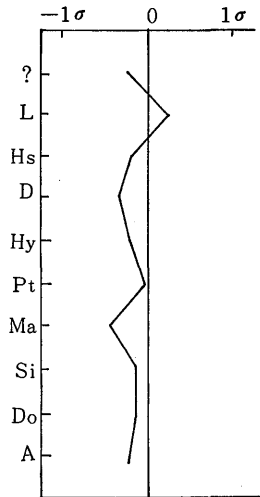
	4年以下 N=13	5年 N=13	6年以上 N=13
?	3.38	2.08	3.15
L	1.54	1.92	2.30
Hs	3.62	3.54	3.62
D	6.00	6.15	5.54
Hy	6.00	6.54	5.92
Pt	9.54	11.85	10.77
Ma	8.31	6.00	5.77
Si	7.23	9.00	7.08
Do	5.38	5.15	4.77
A	15.92	17.23	16.23



第4図 4年以下



5年



6年以上

平均に低い傾向を示している。

5年の選手はPt（不安感尺度）・Si（うちとけない尺度）・A（付加尺度）

が高い傾向を示し、? (妥当性尺度)・Hs (とらわれ尺度) がより低い傾向を示した。

6 年以上の選手は、L (見せかけ尺度) が高い傾向を示し、D (気が重い尺度)・Ma (活発尺度) がより低い傾向を示した。

このことから、経験年数別の性格特性を見てみると、4 年以下の選手は、Ma (活発尺度) が非常に高い傾向を示した。従って、活力にあふれ、極度に熱中し、過度に努力し、自我感情が高揚し、自信に満ち、自己の才能に誇張的で、反対するものに闘争的である傾向が強いと考えられる。低い傾向は、平均的で数値も小さいので、ここでは取り上げないことにする。

5 年の選手は、高い傾向を示したのから、常に不安で観念のとりことなり、雑念がうかんで、意識過剰で、何事にも几帳面に確めないと納得ができなく、対人的接触を好まず、円滑な交際ができなく、自己不確実性で、自信を持ちにくい傾向が強いと考えられる。又、? (妥当性尺度)・Hs (とらわれ尺度)・Ma (活発尺度) がより低い傾向を示した。このことより、物事にはとらわれないが、積極性に欠ける傾向も見られる。

6 年以上の選手は、L (見せかけ尺度) が高い傾向を示した。従って、内容の伴わない自己顕揚の虚言を言う傾向が強いと考えられる。又、D (気が重い尺度)・Ma (活発尺度) がより低い傾向にあることから、将来について楽観的であるが、積極性に欠ける傾向も考えられる。

経験年数別においては、4 年以下の選手が、Ma (活発尺度) に、高い傾向を示した。とすると、4 年以下の選手はよりよい柔道選手の性格特性を持っていると考えられる。

## 7. ま と め

本研究は、西日本高校柔道錬成大会において、優勝・2 位・3 位(2 チーム) の上位 4 チームのレギュラー (19 名) と、1・2 回戦敗退のチームより無作意に選んだ下位 4 チームのレギュラー (20 名) に、T S P I (改訂版) 検査を実施し、その結果を、成績別・身長別・体重別・経験年数別に、比較検討し、柔

道選手の性格特性に関して、研究したものである。

結果は、次の通りである。

#### 1) 成績別

①上位チームは、Pt・Ma・Si・Do が高い傾向を示し、?・Hs・D・Aが低い傾向を示した。

②下位チームは、高い傾向を示したものがなく、?・Hs・Hy・Ma がより低い傾向を示した。

#### 2) 身長別

①低い選手は、Lが高い傾向を示し、Hs・Hy・Aがより低い傾向を示した。

②普通の選手は、Aが高い傾向を示し、あとは全体に低い傾向を示した。

③高い選手は、Pt・Doが高い傾向を示し、D・Hs・?・Lの順に低い傾向を示した。

#### 3) 体重別

①軽量の選手は、Siが小さな数値で高い傾向を示し、?・Maがより低い傾向を示した。

②中量の選手は、?・L・Pt・Ma が高い傾向を示し、Hs・D・Si・Do・Aが低い傾向を示した。

③重量の選手は、Doが高い傾向を示し、?・Hy・Ptが低い傾向を示した。

#### 4) 経験年数別

①4年以下の選手は、Maが非常に高い傾向を示し、あとは平均に低い傾向を示した。

②5年の選手は、Pt・Si・Aが高い傾向を示し、?・Hsがより低い傾向を示した。

③6年以上の選手は、Lが高い傾向を示し、D・Maがより低い傾向を示した。

成績別に、性格特性を比較検討した時、Maが競技成績に大きく関係がある

ことがわかった。

身長別では、**Ma** にあまり差異が見られず、体重別においては、中量の選手が**Ma** に高い傾向を示した。中量の選手は、よりよい柔道選手の性格特性を持っていると考えられる。又、経験年数別では、4年以下の選手が**Ma** において高い傾向を示したことから、4年以下の選手は、よりよい柔道選手の性格特性を持っていると考えられる。